

献 辞

この度、本『広島修大論集——人文編』第38巻第1号が宇野豪前教授のご退職記念号として刊行されるにあたり、僭越ながら、宇野先生のご業績とお人柄の一端をご紹介します、献辞とさせていただきますと思う。

名誉教授宇野豪先生は、本学が沼田キャンパスに移転・開校した1974年4月1日をもって、人文学部人間関係学科の専任教授として就任され、本年3月31日をもって退職されました。

ご在職中の23年間をとおして、先生は、本学の教育・研究においては無論のこと大学運営においても、言葉では表現できぬほどの忍耐力と誠意をもってご尽力くださいました。

先ず、研究面についてご紹介しますと、宇野先生のご研究はおおよそ三つの分野、その一つは私立学校行政・経営に関する社会学的・統計学的研究、二つには教育思想・基礎論に関する哲学的・理論的研究、三つには国民高等学校の思想及び創設運動に関する交流史的・受容史的研究にまとめられる。これら三分野にわたるご研究の成果は、宇野先生が広島文理科大学教育学科研究科に進学された後今日に至るまでに、多数の著者・論文として蓄積されている。

特に、三つ目の研究分野である国民高等学校運動に関するご研究は、デンマークにおける国民高等学校の教育思想及び創設の、日本における受容過程と創設運動の史的過程分析を中心としたものであり、本学研究叢書上・下二巻に集大成されている。国民高等学校に関しては、従来わが国においては未開拓の研究領域であり、これを本格的に解明した研究として、わが国の教育史学界にとって貴重な財産といえることができます。

大学運営面に目を転じてみますと、先生には、1984年以後、本学が厳しい問題状況に直面しているなかで、図書館長、人文科学研究科長や副学長等の要職を歴任され、本学の改革・発展に多大なご貢献をいただいた。また先生は、本学内にとどまらず、例えば「全国私立大学教職課程研究連絡

協議会」，通称「全私教協」の運営委員，代議員や副会長・会長代行として，長期にわたり同協議会の運営にあたられるとともに，私立大学教職課程の整備・充実に向けて実態調査・理論研究等に従事されてきた。

宇野先生のご活動はここにご紹介した以外にも多岐にわたるが，こうした諸業績を生み出された先生の原動力ないし土台は，先生の誠実にしてひたむきな生き方にみられるように思っている。先生はそのお人柄において誠に温厚でいらっしゃるし，しかも常に寛容の精神をもって物事に対処されてきているように思う。先生の他者に対する優しさや先生に対する人望の厚さについて今更申し上げることもないが，例年，教育学専攻の学生が数多く宇野先生の「演習」クラスでの学習を希望していたことも，そのことを物語る証の一つと思う。実に宇野先生は学生とその教育を大事にされる先生のお一人である。宇野先生と同じ年に本学に就職した私自身，これまでの23年間をとおして，先生から実に多くを学ばせていただいた。学生とともに，深く感謝を申し上げたい。

最後に，宇野先生には今後も変わらぬご指導をお願いするとともに，今後の一層のご活躍とご健勝を念じてやみません。

1997年4月

人文学部長 森 川 泉